

中高年単身者が充実感を感じるのはどんなときか

ライフデザイン研究部 上席主任研究員 北村 安樹子 (きたむら あきこ)

中高年単身者の人生設計と日々の充実感

人生100年時代には、長期化する人生をカバーする計画的な資産形成(資産寿命の延伸)とともに、就労寿命(働く期間)の延伸が重要な課題となる。また、これらと同時に日々の充実感や幸福感など心の豊かさにかかわる要素について考えていくことも、総合的な人生設計として重要になるだろう。

また、現在の中高年世代には結婚しないライフコースを歩む人も多く、配偶者がいる人に関しても離別・死別等を経て将来単身世帯となる可能性がある人が少なくない。このため配偶者のいない中高年単身者の日々の充実感や幸福感について考えていくことは、今後わが国で増加が進むと予想される高齢単身者の日々の充実感や幸福感を考えていく上で参考になるとと思われる。加えて、働く期間が長期化するこれからの時代は、仕事とともに、仕事以外の時間や活動の重要性に注目することが重要な視点になる。以上の背景をふまえ、本研究では雇用者として働く40～59歳の配偶者のいない単身者に注目し、彼らが充実感を感じる時間や活動の実態を明らかにするためのアンケート調査を行った。

回答者の配偶状況や年収などの経済状況は資料1に示すとおりである。以下では、回答者のふだんの生活の充実度や充実感を感じる時の実態について、就労形態別に考察する。

ふだんの生活の充実度

はじめに、中高年単身者がふだんの生活についてどの程度充実していると感じているのかをみる。ふだんの生活について充実していると答えた人(「とても充実している」「どちらかといえば充実している」の合計割合)は、正規雇用者(36.2%)が非正規雇用者(30.7%)を上回った(資料2)。

性別に比較した場合、正規・非正規とも女性の方が充実していると答えた人が多く、4割前後が充実していると答えている。男女差は正規雇用者より非正規雇用者で顕著にみられ、非正規雇用の女性では充実していると答えた人(37.6%)が男性(23.8%)を10ポイント超上回った。中高年単身者では、就労形態にかかわらず男性の方がふだんの生活に充実感を感じにくく、そうした傾向は非正規雇用の男性で最も顕著であることが確認された。

資料1 回答者の主な属性

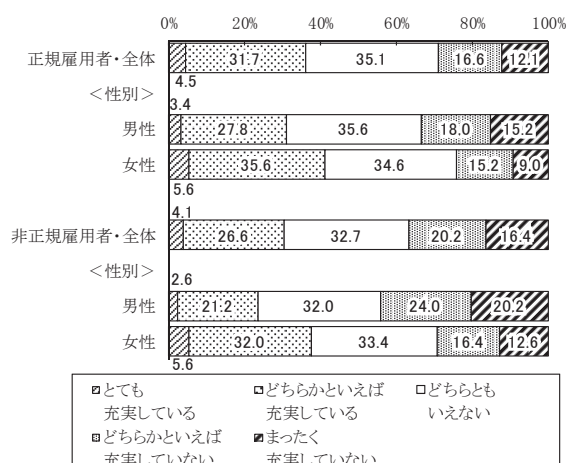
(単位:%)

	配偶状況				平均年齢	平均年収
	未婚	離別	死別	計		
正規雇用者・全体	84.3	14.3	1.4	100.0	49.2歳	558万円
<性別>						
男性	83.6	15.2	1.2	100.0	49.4歳	538万円
女性	85.0	13.4	1.6	100.0	49.0歳	533万円
非正規雇用者・全体	84.7	13.3	2.0	100.0	49.6歳	250万円
<性別>						
男性	90.2	9.6	0.2	100.0	49.8歳	250万円
女性	79.2	17.0	3.8	100.0	49.5歳	241万円

(注)調査方法はインターネット調査(株式会社クロスマーケティング)、調査時期は2018年10月。対象者は調査会社の登録モニターから一都三県の正規雇用者と非正規雇用者各1,000名を性・年齢階級別に均等になるよう抽出。平均年収は「わからない・答えたくない」を除外して算出

(出所)北村安樹子「中高年単身者の幸福感—仕事以外の時間・活動の重要性に注目して—」[Life Design Report]Winter 2019.1より筆者作成。

資料2 ふだんの生活は、どの程度充実しているか(就労形態・性別)



(出所)資料1に同じ